

# 県士会 ニュース

No.  
221  
[2023.6]



Kanagawa Association of Occupational Therapists — KAOT —

## Contents

### TOPIC

#### 2 第19回神奈川作業療法学会の広報活動に関するお知らせ

- 1 巻頭言
- 2 カナドラ！《県士会ニュース出張版》
- 3 公益法人格取得への道

- 3 各部からの報告
- 6 理事会議事録
- 11 2023年2月度理事会委員推薦者
- 12 絵本でみる作業療法
- 12 220号（2023年4月発行）のお詫びと訂正について
- 12 事務局からのお願い
- 12 編集後記

## 巻頭言 | アジア太平洋作業療法学会



広報宣伝委員 岩上 さやか

8th APOTC, 2024  
Sapporo, Japan

新緑のさわやかな風も通り過ぎ初夏の気候が近づいてきました。皆さん新年度の疲れは残っていませんか？いよいよ今年度は対面での学会開催情報が増えてきていて、ワクワクされている方も多いかと思います。第19回神奈川作業療法学会も今年度は対面とオンラインのハイブリットで開催されますし、第57回日本作業療法学会も沖縄での対面とオンラインのハイブリットで開催されます。さて、今回は2024年に日本で開催される国際学会の紹介です。2014年に世界作業療法士連盟学会が横浜で開催されたのが昨日の事のように、あれから10年、来年は第8回アジア太平洋作業療法学会 (APOTC) が「札幌」で開催されます！作業療法士人生の中で、自国で国際学会が開催される機会はそうありません。今この時に作業療法士をしている皆さんには大きなチャンスです。海外へ行かなくても、北海道へ行けば世界の作業療法士の皆さんと沢山交流できるのですから。

APOTCは4年に1度開催されている作業療法の国際学会で、日本での開催は初となります。神奈川県士会からは高橋香代子先生が実行委員長補佐及び学術プログラム委員長として学会の準備を進めておられます。APOTC実行委員会は昨年より既に活動しており、ポスターやSNSでの広報活動も開始していますので、皆さんもこのロゴに見覚えがあるのではないのでしょうか。学会に関する様々な情報をSNSで発信していますので、ぜひチェックし

てみてください。Twitterでは主に国内向けに日本語で演題登録情報などをお知らせしています。FacebookとInstagramでは英語と日本語で学会に関する情報の他、北海道の情報とAPOTCの歴史をコラム的に配信しています。フォローしていただくと定期的に英語の文章が流れてきますので、英語に触れるチャンスになるかもしれません。英語文の後に必ず日本語文も付けていますので、ご自身で訳しながら読んでみてください。

学会が沢山あると思うと、何を発表しようかと嬉しい悲鳴があがりますね！ぜひ皆さん積極的に参加して、神奈川県内のOT仲間、日本国内のOT仲間、そしてアジア太平洋圏のOT仲間と作業療法を語り合い、その発展を私達皆で支えて行きましょう。

### 第8回アジア太平洋作業療法学会

開催日：2024年11月6日（水）～9日（土）

場所：札幌コンベンションセンター



Facebook



Instagram



Twitter

# 第19回神奈川作業療法学会の広報活動に関するお知らせ

広報委員長 神保 匡良



2023年10月15日に開催される第19回神奈川県作業療法学会の広報委員長を務めさせていただいております神保匡良と申します。学会の魅力伝え、多くの方に参加していただくためSNSを使った広報活動を行っております。試行錯誤の中、広報を行っておりますが楽しみながら活動させていただいております。また今回の大会のテーマである「ダイバーシティ&インクルージョン」は、多様な背景を持った人々や価値観を包含し受容する社会で、そこから生まれる創造性や競争力が社会の力の源泉ともなると注目されている概念となっております。今回の神奈川県作業療法学会においても、各領域から様々な思いが込められた演題・講演を通して、社会に必要とされる作業療法のイノベーションを巻き起こして行きたいと思っております。

さて現在の広報活動ですが、Twitter/Facebook/Instagram/Tick TockといったSNSをフル活用して活動しており、『作業療法士のワクワクを喚起する』というテーマを持ち広報活動を行っております。具体的活動内容としては、学会参加の呼びかけに加え、「茅ヶ崎のオススメ情報の発信」「県士会準備委員会のQ&Aショート動画の発信」「広報委員オリジナルのイラストの使用」など、楽しめる広報

活動を展開しております。是非多くの方に公式SNSのフォローになって頂きたいと思っております。

本大会は現地開催とオンライン開催のハイブリットで行われます。現地で行われる講演は、学校作業療法で活躍しておられる『こどもセンターゆいまわる』の仲間知穂先生、作業の魅力伝えるため講演や執筆活動をされている仙台青葉学院短期大学の斎藤佑樹先生の参加が決定しております。また「ダイバーシティ&インクルージョン」に因み、身体領域では竹林崇先生、精神領域からは清家庸佑先生・早坂友成先生、高齢期からは村田和香先生・小川真寛先生、地域領域からは宮崎宏興先生・木村修介先生、教育領域からは澤田辰徳先生・黒澤駿先生、作業療法2.0からは石橋仁美先生・元廣惇先生、神奈川県の試みとしては大郷和成先生・野々垣睦美先生・廣瀬卓哉先生・前田智恵子先生・芝崎律子先生・初鹿真樹先生、菅原健介先生といった、多様な領域から多くの著名な先生方に講演依頼をしております。今後、学会プログラム・講演発表者に関する情報を各SNSやホームページを通じて発表していきますので、お楽しみにして下さい。

## カナドラ！《県士会ニュース出張版》

### ～ 自動車運転支援の流れ ～



◀ 神奈川県の自動車運転に関するアンケートはこちら



◀ ブログ版カナドラはこちら

制度対策部自動車運転班 渡邊 隼人

制度対策部自動車運転班のブログ「カナドラ！」（下記QRコードよりブログチェックもお願いします！）の県士会ニュース出張版第9回です。2023年も継続して掲載させていただくことになりましたので、またよろしくお願い致します。

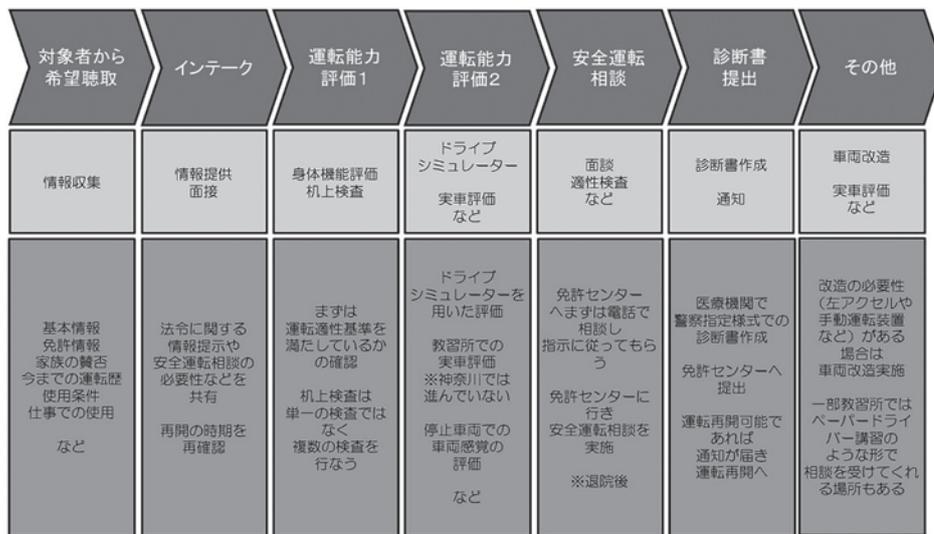
今回は基本的に立ち返る形になりますが、運転支援の流れを再確認していきたいと思っております。

今回提示した図は一例であり対象者の状況に合わせていく必要はありますが、

ドライブシミュレーターを有している施設では大まかな流れはこのようなものになるかと思っております。

以前に紹介した書籍（OT協会発行 作業療法マニュアルなど）や運転と作業療法委員会が発行している「押さえておきたい！運転再開支援の基礎」でも詳しく説明されていますので、ご一読いただければと思います。

2022年度の自動車運転班の勉強会に参加していただいた皆様、ありがとうございました。また今年度も勉強会を企画いたしますので、県士会ウェブサイトのブログや研修会情報もチェックをお願いします！



## 公益社団法人格 取得への道

### 「2022年度第2回県民公開講座(プレ公益目的事業)」報告 ～福祉避難所や在宅避難の要支援者に作業療法士ができることは?～

公益法人化対策委員会 澤口 勇

令和5年3月5日(日)、2022年第2回目となる県民公開講座(プレ公益目的事業)をオンラインにて開催致しました。内容は「川崎市における災害福祉・在宅医療的ケア児・者への取り組み～人工呼吸器使用者への災害時電源確保事業のご紹介～」と題し、川崎市健康福祉局総務部危機管理担当 課長補佐の広岡真生氏にご講演を頂き、前回同様に今回も会員以外に7割以上の市民や支援者のご参加を得ることができました。

今回、当委員会が県民公開講座のテーマに選んだのは震災にちなみ「災害弱者」。災害弱者とは、障害児・者や高齢者、乳幼児など、災害時に比較的危険にさらされやすい人々を指す言葉で、自力での避難が通常の者より難しく、避難行動に支援を要する人々を指す。行政上「災害時要支援者(要配慮者)」と呼称されている。近年の大規模災害は、高齢者や障害者等がより大きな被害を受ける傾向が著明で、東日本大震災では障害者の死亡率が住民全体の死亡率の2倍であったとのデータもある。国は令和3年に災害対策基本法を改正し、市町村に対し個別避難計画についての作成を努力義務化。一方で全国のリハビリテーション関連13団体でつくる災害支援チーム「JRAT」に日本作業療法士協会も参加しているが、JRATとしての主活動は「避難所の環境整備」から入るため、今回のご講演で取り上げて頂いた「福祉避難所(老人福祉施設や障害者支援施設等、児童福祉施設、保健センター、特別支援学校など)や在宅避難を余儀なくされる災害時要支援者(特に人工呼吸器など生命維持のために医療機器の電源を常時必要としている人たち)への支援」は後方支援となってしまうことに着目し、日頃から地元の災害時要支援者(高齢者や障害児・者)のリハビリに携わっている会員の方々こそ、災害の際には一般の避難所支援のほかに福祉避難所や在宅避難におけるリハ支援にも関心を持って頂きたく、今回このような企画をさせて頂きました。

講演の参加者からは「夜間、人工呼吸器の子供をもつ母親

です。当事者の生の声をしっかり聞き入れて下さった計画を立てて頂いていることが伝わってきた。嬉しかった」「初めて知った内容ばかり。医療福祉に携わるものとしてこんなに知らないことだらけでいいのか?と不安になった」「8年前に地域の小学校の防災訓練に、気管切開をしている重心の娘を連れて参加。我が家も吸引機の電源が必要で(非常時バッテリーなど)ある程度は準備しているが、行政としての準備を区役所職員に質問したところ、そんなこと想定していないといったとてもショックな返答だった。その頃に比べれば随分整備されてきたかなと思う」などの声がありました。

講演では「個別避難計画を立てた際に、8～9割の要支援者は自宅避難を希望」という情報も教えて頂きました。すなわち、日頃から皆様がりハ支援している障害児・者のほとんどの方は、おそらく災害の際には一般避難所には向かわず、自宅避難をしている場合が多いようです。そこで真っ先に支援の手を差し伸べることができる方は誰でしょうか?行政の方も「初めて会う行政の者よりも普段の生活のことを一番熟知して普段から会っている方からの支援がベスト」だと。さて誰でしょう、もうあえて申しませんが言いましょ。作業療法士です!

川崎市での推計では施設入所者は約1.9万人、在宅福祉サービス利用者は約1.3万人、福祉サービス未利用者は約3.1万人、在宅医療的ケア児・者は154人(講演会の資料より)。とても行政が単独で支援できる数ではありません。我々の出番です!共生社会と呼ばれる今、このような社会的課題への取り組みは今後、当会としての公益目的事業の一つになるのではないかと考えさせられました。さて、皆様はどのように感じましたか?

今年の夏には「新しい時代の公益法人制度の在り方」の骨太方針が政府より出される予定です。昨年12月の中間報告では「公益法人が社会的課題の取組を継続・発展的にできるように」とありました。政府方針の発出を待ちたいと思います。

## 各部からの報告

### ▶ 学術部

●学術部研究助成班から研修会のお知らせ

(文責:佐々木 洋子)

研究に一步踏み出してみたい方必見!研究助成班が伝える 研究プロセスー過去の研究内容を通してー

今回、研究をもっと身近なものとして考えてもらえるように、研究助成班が主催する研修会を初めて企画しました。本研修会では、研究助成事業のプロセスと過去の研究内容を分かりやすく紹介します。特に研究が審査されるしくみや、論文が査読されるしくみを踏まえた研究計画書の書き方を具体的に紹介する内容は必見です。また過去の研究において、臨床疑問のひらめきから研究遂行までの内容をたくさん紹介することで研究テーマを考えやすくなると思います。「研究に興味はあるけど何から始めればよいか分からない」と

いう方が、始めの一步を踏み出しやすくなる内容です。研究は、その経験を通して臨床実践に役立つ視点をたくさん学べるものですので、研究助成事業への応募有無に関わらず奮ってご参加ください。

開催日時:2023年6月10日(土)10:00-11:30

開催方法:ZOOMを使用したWEB開催

講師:石川 哲也先生(済生会神奈川県病院、神奈川県作業療法士会 研究助成班)

※詳細は、県士会ホームページをご参照ください。

## 各部からの報告

### ▶ 学術部

#### 2023年度の研究助成事業の募集について

(文責：佐々木 洋子)

神奈川県作業療法士会の研究助成事業では、毎年2研究課題に対してそれぞれ最大20万円の助成金を出しています。この事業の目的は、神奈川県作業療法士会の発展に寄与する研究・実践についての知見を多くの会員間で広く共有することであり、最終的には神奈川県作業療法研究へ論文投稿するまでを目標としています。2022年度は、研究Ⅰと研究Ⅱに1名ずつ支給されました。

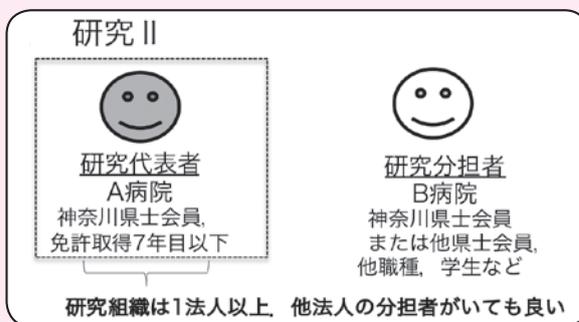
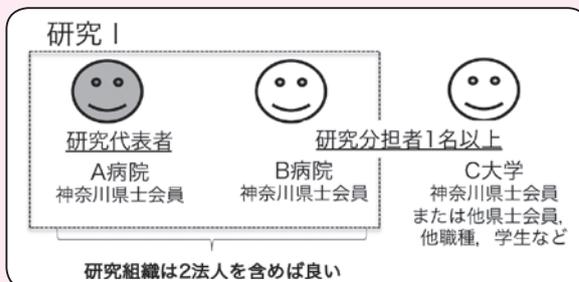
2023年度における研究課題の公募期間は5月1日から7月31日までです。興味のある方は、県士会ホームページで研究助成事業概要及び必要書類を確認して下さい。研究となると敷居が高く感じられますが、チャレンジしたいと考えている方に対して、学術部が相談に乗ることも可能です。質問や相談したことがある方は、学術部研究助成事業班 kana-zyosei@kana-ot.jp まで気軽にメールして下さい。

#### 【研究代表者及び研究組織】

(研究Ⅰ) 研究代表者は全神奈川県士会員。研究組織は 2法人以上 (研究分担者は神奈川県士会会員を1名含む)。

(研究Ⅱ) 研究代表者は免許取得7年目以下。研究組織は 1法人以上。

#### 【研究組織の例】



#### ●学術部スキルアップ研修会

#### 『研究のはじめの一步～アイデアをかたちにするには～』が開催されました

(文責：梶原 真樹)

2022年度7回目の学術部主催スキルアップ研修会は、北里大学病院にて勤務されております、理学療法士の南里佑太先生を招いて『研究のはじめの一步～アイデアをかたちにするには～』を開催致しました。

講義では、臨床研究を行う上で困難なポイントやその解決策について、ケーススタディ形式で教えていただきました。具体的な内容として、FINERなどのワークフレームの使用法や論文レビューの重要性を教えてくださいました。また、英語論文の具体的な検索方法や論文検索に関わる便利ツールの紹介、論文抄読の方法、普段の臨床業務から臨床研究を行うための解決策など明日から使える内容となっていました。

今年度も多くの研修会を企画しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。



## ▶ ウェブサイト管理委員会 県士会サイト スペシャルコンテンツ紹介

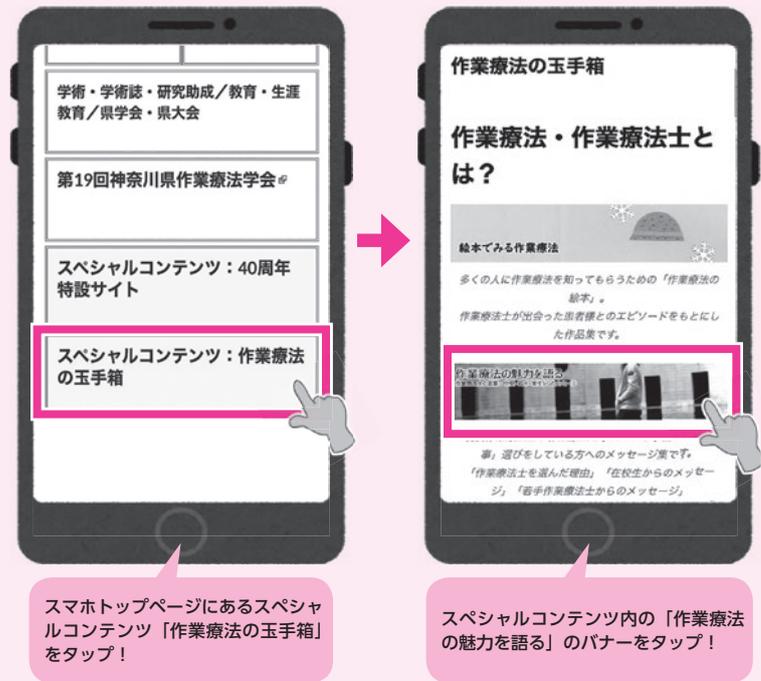
(文責：ウェブサイト管理委員会 佐藤 範明)

今回は作業療法のやりがい・面白さ・深みを発信するスペシャルコンテンツ「作業療法の魅力を語る」を紹介します。本コンテンツは、「中堅 OTR が「作業療法」を語る」、「若手 OTR からのメッセージ」、「在校生からのメッセージ」、「作業療法士を選んだ理由」の4つから構成され、2005年の運用からすでに100名以上の県内作業療法士のメッセージを掲載しています。

作業療法学生から中堅作業療法士の仕事にける想いや、作業療法士を志した契機など様々な語りが満載です。近年は文章のみでなく動画編も掲載し、令和の時代にも対応しております。是非一度コンテンツをご覧ください！

また、皆様からの原稿の協力もお待ちしております。あなたのメッセージが作業療法の魅力を多くの方に届けること間違いなし！！

図)【作業療法の魅力を語る】スペシャルコンテンツ閲覧方法 (スマホ Ver.)



## ▶ 地域リハビリテーション部

### 「人材育成研修会〈地域を作る～作業療法士からの助言と提案〉」の活動報告

(文責：岡本 航生)

令和5年3月5日に地域リハビリテーション部主催の地域リハ人材育成研修会をオンラインにて開催しました。にて開催いたしました。今回の研修では東京都作業療法士会の金澤 均先生より地域ケア会議の目的や内容について事例を用いて講義をしていただきました。日本がこれから抱える高齢社会の問題や15年以上前から言われている介護予防の課題という観点からOTが地域で必要とされている理由を説明していただきました。その後地域ケア会議におけるOTの専門性や地域ケア会議で求められる人材についてのお話があり、地域ケア会議に参加したことがないOTでもわかりやすく勉強になる講義をしていただきました。そこで厚労省が地域のOTに求めていることと、実際の現場のギャップがあることを感じました。目の前のクライアントを知ることはもちろん、それを囲む環境や地域について知る重要性は、地域ケア会議においてだけでなく臨床においても非常に大切な視点であると勉強になりました。講義後は模擬症例を用いて地域ケア会議にてOTがどのような助言をすればよいかについて少人数に分かれてグループディスカッションを実施しました。ディスカッションでは病院や訪問、小児等様々

な領域で活動されているOTの皆さんやこれからOTを志す学生さんまで参加し、あらゆる視点で必要な情報や課題、強みを共有し非常に充実したディスカッションを行うことが出来ました。

今回の研修では、オンラインで一方向的に講義を聞くだけでなく、グループディスカッションにて意見交換をすることで主体的に学ぶ機会を得られたかと思えます。そこで、地域支援に携わるために必要なのは「主体性」なのではないかと改めて感じる事が出来ました。これは地域支援事業だけでなく、日頃の臨床現場や勉強でも必要なことだと思います。クライアントの主体性を引き出すためにもまずはOTが主体的に動く。これが出来る事が地域で活動していく上ではより一層必要なのではないかと今回の研修にて感じました。今回講義をしていただいた金澤先生をはじめ、参加者の皆さんに感謝申し上げます！2023年度も神奈川県士会の地域リハビリテーション部では人材育成研修やOT地域ミーティング等を企画しております。まだまだ地域にはOTが必要とされています。皆さんで地域のOTを盛り上げていきましょう！！

# 理事会議事録

## ★ 2022年度 第10回理事会 議事録 2023.2.22

日時：2023年2月22日（水）19：01～21：35

場所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、金山桂（副会長）、吉本雅一（事務局長）、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、木村修介、戸塚香代子、澤口勇、西川航平、大郷和成（17名）

欠席理事：望月強併（1名）

出席監事：錠内広之、野々垣睦美（2名）

### I. 会長より挨拶

本日は池田選挙管理委員長にもお越しいただいております。役員選挙に関する報告があります。

### II. トピックス

1. 役員選挙報告（選挙管理委員会 池田委員長）  
19日消印有効で立候補届け出を締め切った。本日で現在で理事12名の立候補を確認。監事の立候補はなし。定款の範囲で理事役員を理事会で推薦するかの検討を依頼。
2. 地域支援活動助成金事業実施要綱について（エリア化推進委員会）  
実施要綱詳細が完成。理事会にて本要綱で運用を確認。

### III. 審議事項について

1. 湯河原町介護認定審査会 委員推薦について→承認
2. 小田原市介護認定審査会 委員推薦について→承認
3. 日本ケアマネジメント学会第22回研究大会 後援について →承認
4. 定款第26条の変更について  
→承認 社員総会議案として提出する
5. 電子取引データの訂正及び削除の防止に関する事務処理規程の作成について →承認  
〈質問・確認事項〉  
○電帳法は基本的にはデータでの保存を求められるものであるが、その管理のためにこの規程が必要なのか→その通り。ただし基本的にはデータ保存であるが紙ベースでの保存も可能。  
○今後の具体的な対応について教えてほしい  
→各部署対応は必要となるが具体的な対応は現在検討中。  
○罰則規定はあるのか→詳細について確認する。  
○取引情報訂正・削除申請書の記載方法の見本があると分かりやすい→検討する。

### IV. 報告事項について（各部署・理事）

#### 【各部署】

1. 事務局・財務部・福利部  
(1) 第10回社員総会について

進捗状況の報告と今後スケジュール等の確認。代議員への出欠確認準備を進めている。議案書は各部署の箇所に関して3月20日最終締め切り。期末監査手続きについては3月より開始し事業が終了次第速やかに手続きをする。県士会功労表彰対象者の選定は2月で完了し3月の理事会で審議承認の予定。

2. 教育部  
3月19日「臨床実習指導者講習会アドバンスコース」は開催予定人数に達しなかったため中止。

#### 3. 福利部

##### (1) 倫理研修会報告

1月18日（水）18：00～19：00

講師：日本作業療法士協会倫理委員長太田睦美氏  
参加者20名（定員30名）アンケート回収率55.5%であった。平日の18時台の開催は参加しやすいとの回答が多数あり満足度も高い結果。今後の県士会への希望として、人材育成、入会促進、組織マネジメント、離職防止対策などの企画立案してほしいとの要望をいただいた。

##### 〈意見交換等〉

- 想定以上に参加者が集まり良かった。今回は管理者向けとターゲットを絞っていたのでテーマについても関心が高く有益だったと感じた。
- 入会促進目的で各施設（現場）向けにも広報活動を行いたい。意見をいただいた施設を特定可能か。→できない。参加者に今後のイベントなどを案内することは可能。
- 管理者向け企画については制度対策部も実施。アンケートでは同様な意見あり。来年度は広報部福利部等とも協働して実施したい。
- 倫理問題は非常に大切なテーマだと感じる。社会的には報道にあるように虐待について大きな問題となっている。人権問題についても今後研修会を開催できると良い。

#### 【理事】

1. 田中理事  
(1) 40周年記念事業プロジェクトチームより  
ア) ロゴマークシールを名刺貼付用に作成。  
イ) チャレンジ動画の出演者に薄謝ながらお礼贈呈。  
(2) 令和4年度神奈川県在宅医療推進協議会リハビリテーション部会について  
2月7日オンライン会議に出席。来年度以降も継続の予定。各団体が具体的な出来る支援を継続して検討する予定。  
(3) 2023年度第4回47都道府県委員会について  
3月11、12日開催。委員として神保会長、オブザーバーとして田中副会長、金山副会長、澤口理事が出席予定。
2. 金山理事  
(1) 選挙ワーキンググループより  
三役の互選方法について現理事にアンケートを取る。以前よりどのような方法がより現実的かつ有益かの質問があり、引き続き検討していくことが課題であった。現理事から意見をいただき、互選方法に

ついでに定款・規程の整備の一助としたい。

〈質問・意見交換〉

○アンケートの設問は複数回答可能か →基本的には1つの回答を選択

○質問内容にないことや提案はぜひその他の箇所で自由に意見を記載してほしい

○選挙活動については禁止行為が明確化されていないと感じる→三役の互選の規約の変更を検討しており明確化する。役員、代議員選挙については改定済み。

○一般社団法人法では代表理事を監督する立場にあるのが理事であり、代表理事は理事が決定することが法的に規定されているため、代議員の意見を聴くことは出来るが決定権はないのではないか→その通り。代議員の意見を聴くことは出来るが決定権は理事が保有している。

○当会の正しい運営が継続できるよう法に基づいて三役を選出決定することが重要だと感じる

### 3. 遠藤理事

(1) OT協会地域包括ケアシステム推進委員会主催オンライン研修会

約160名が参加。地域共生社会の実現に必要なこととして、障害・精神・小児・高齢者など全ての分野で活躍するジェネラリストの存在が必要。日本作業療法士協会は2023年度より組織改編を行う予定となっており、地域社会振興部では、地域包括ケア、認知症、運転と作業療法、スポーツ領域、災害活動などあらゆる分野の活動を行っていく予定。地域包括ケアシステム参画の手引き第2版については来年度公開予定。

### 4. 戸塚理事

(1) 教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会

1月28日開催参加。「特別支援教育に関する最新の話題と作業療法士の参画」をテーマに、国連における障害者の権利に関する条約に関する政府の総括所見について、学校教育（現状）の動向について、通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする生徒に関する調査結果について、教育現場における作業療法の参画状況などについて説明があった。また各都道府県での取り組みの報告があり、三重県については神奈川県特別支援学校に勤務する作業療法士が協働しているとの報告があった。神奈川県は特別支援学校に専属の作業療法士が以前より配属され、先駆的な活動を行っていることを改めて確認した。

〈意見交換〉

○教育領域に関しては今後も知見を広げていく必要あり

○特別支援学校に配属されている作業療法士との連携について、以前も当会は模索してきたが継続できずに途切れてしまった。過去には厳しい意見もいただいていたが、今後の連携に関してはどのような対応工夫が必要なのか

→状況が大きく変化してきていると感じる。現場の作業療法士に意見を求めると、積極的に連携

協力したいという意見を多数いただいている。専門的に関わっている作業療法士に協力をいただくだけでなく、他領域の作業療法士にも教育領域の作業療法について広め、多くの人に関わってもらいたい。

### 5. 神保会長

(1) 日本作業療法士協会「会員の個人情報取り扱いに関する覚書（改定案）」の締結について先月に引き続き説明確認。専門家の助言をいただいた。個人情報保護法にも関連することであり、会の方針転換にも関わることであるため、社員総会にて代議員の議決を取った方が良いのではないかと見解をいただいた。社員総会にて議案として提出し承認をいただき、個人情報取扱業務概要説明書に具体的な文言（(11)「協会員＝士会員」の実現促進をはじめとする日本作業療法士協会・本会の会員の管理業務等）を追記していくこととする。→社員総会の議案として提出することを確認した。

〈質問・意見交換〉

○本件は進めていく必要がある事案。会員へ広報し代議員に承認をいただくことが大切。

○ニュースを活用して広く会員に広報してほしい。会員からの意見を代議員にいただけるのではないかと。

→県士会ニュース4月号へ記事を入稿し広報する

○県士会会員ではない作業療法士への広報はどのようなになるのか。→当会からは当会正会員への広報のみとなるため非会員への直接広報は出来ない

(2) 2023～2026年中長期計画（案）について理事の意見をいただき再度修正加筆した。内容を確認し議案として社員総会へ提出することを決定。

(3) 来年度に向けて研修会の開催方法について意見交換

○他団体では対面での開催が増えてきている。政府が進める5月18日からの規制緩和を契機に、対面での実施を再開し、オンラインと併用してはどうか。また各部署会議も必要に応じて対面で開催したい。

○先日の臨床作業療法大会アンケートにおいても開催方法の検討が挙げられていた。対面、オンライン、ハイブリット、オンデマンドなど、目的や状況に応じて柔軟に活用できるように整備していきたい。より多くの様々な状況に置かれている会員が参加できる仕組みを作りたい。

○オンラインシステムを使用した研修会にも大きなメリットがあった。対面式だけに拘らずにオンライン、ハイブリット開催も視野に入れていきたい。

○オンライン開催は必要。各部署で目的に応じて選択できるように整備してほしい。

→4月度理事会で方針について最終確認を行う

### V. 役員選挙 立候補結果報告を受けて

理事12名、監事0名の立候補であった。安定かつ適切な理事会ならびに当会の運営のためには、定款で記す最大数である理事18名、監事2名が必要と考える。その点に理事会の総意として確認した。今後の推薦対応については理事会後の三役会で検討し理事会に共有する。3月16日

開催予定の3月度理事会で来年度の理事・監事候補について最終確認する。最終決定した理事・監事候補について選挙管理委員会に連絡する。

## Ⅶ. その他 連絡事項等

1. 議事録署名人について  
吉本事務局長から指名があり決定する。神保会長、野々垣監事、佐々木理事、戸塚理事。
2. 第19回神奈川県作業療法学会実行委員会について(大郷実行委員長)  
1月20日～3月20日で発表意思表明期間。現在14名の演題発表申し込み。周囲の会員へ引き続き周知を依頼。
3. 監事より
  - (1) 野々垣監事  
今月中長期計画、役員選挙に関する事など重要な議事がありました。誰が何を行っていくのか引き続き明確にしながら、社員総会開催まで現役員で共に運営していきましょう。
  - (1) 錠内監事  
お疲れさまでした。役員選挙については調整して推薦候補を依頼することを望みます。先の組織改編の検討では、将来的に理事数を調整する案が出ていますが現状の移行期ではまだ最大数18名は必要と考えます。期間に限りがありますが今後の円滑な運営のために検討を続けてください。  
以上(文責:事務局長 吉本 雅一)

## ★ 2022年度 第11回理事会 議事録 2022.3.16

日 時：2023年3月16日(木) 19:00～22:48  
場 所：オンライン開催のため各自自宅・職場  
出席理事：神保武則(会長)、金山桂(副会長)、吉本雅一(事務局長)、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、木村修介、戸塚香代子、澤口勇、望月強併、西川航平、大郷和成(17名)  
欠席理事：田中ゆかり(副会長)(1名)  
出席監事：錠内広之、野々垣睦美(2名)

## Ⅰ. 会長より挨拶

先日今年度最後の47都道府県委員会が開催され出席しました。来年度からは日本作業療法士協会を併せて48委員会となる予定です。

## Ⅱ. 審議事項について

1. 特定非営利活動法人しろい地図「福祉を創る学校」後援申請について→承認
2. 神奈川県作業療法士会 功労表彰者について→承認
3. 費用弁償規則の修正について→承認  
併せて費用支給方法に関して社会的に広く活用されている方法が使用できるように検討を継続する。
4. 組織規程の修正について→承認  
関連事項として賛助会員の枠組み、会費の設定、他団

体との関係性については引き続き検討していく。

5. 三役互選方法(三役互選内規)について→承認  
理事アンケートを踏まえて、公正に互選を行うために今回は現行の方法に加えて、立候補理由を述べる順番と質疑応答の機会を設けることを追加する。今後も選挙がより公正に行えるよう引き続き課題を抽出し理事会で検討を続ける。
6. 理事・監事候補の推薦について  
理事3名、監事2名の推薦候補について承認。また定員18名に対して3名少ない状況に関して、候補者を再検討していくこととした。期間が非常に短いため具体的な候補者(8名)を挙げて対象者へ各役員より直接相談することとする。各部署部員や養成校教員、各領域など幅広い範囲での候補者の検討を行った。3月22日に臨時理事会を開催し、内諾を得られた候補者について審議することとする。

## Ⅳ. 報告事項について(各部署・理事)

### 【各部署】

1. 事務局
  - (1) 事務局について  
事務局員の後任について推薦あり。採用面接を進める。事務局員の業務把握と整理のためリスト化を進めている。
2. 事務局・財務部・福利部
  - (1) 第10回社員総会に向けて 総会、監査、表彰等  
ア) 事務局 一般会員の傍聴に関しては後日ホームページを使用して希望を募集。理事・役員の当日の交通費等支給に関してクオカード支払いについて確認→異議なし。  
イ) 財務部 4月8日期末監査を実施。事業終了後に速やかに監査手続きを行うように改めて依頼。  
ウ) 福利部 功労表彰者に関して確認し表彰式(社員総会時)への出席を依頼する。次月理事会で報告する。
3. 福利部
  - (1) 写真コンクール投票結果について  
3作品の応募。最優秀作品賞を理事会投票で決定した。
4. 学会評議委員会・第5回臨床作業療法実行委員会
  - (1) 第5回神奈川県臨床作業療法大会報告  
収支は問題なく決算が完了。県士会監査へ必要書類を郵送予定。事業費の残金についても返還する。3月をもって臨床大会ホームページを閉鎖する予定。使用した備品に関しては事務局へ郵送保管し後日学会評議委員会にて詳細を確認予定。学会実行委員会、学会評議委員会、協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。
5. 公益法人化対策委員会
  - (1) 第2回県民公開講座報告  
開催日時：令和5年3月5日(日) 14時～16時  
タイトル：「川崎市における災害福祉・在宅医療的ケア児・者への取り組み～人工呼吸器使用者への災害時電源確保事業のご紹介～」  
講師：広岡真生 氏(川崎市健康福祉局総務部危機

管理担当 課長補佐)

申込者：20名（会員4／他県士会3／非会員1／支援者6／家族5／その他1）

参加者：15名（会員4／他県士会2／家族4／支援者4／その他1） ※多職種の参加があり

ホームページやチラシ、口コミで企画を知り参加。市の実際の取組を知れて大変安心したと感想あり。実際には避難せず自宅で待機する当事者が多いことが分かった。

## 6. 認知症対策委員会

### (1) 認知症に関わる士会担当者意見交換会報告

①政府の認知症政策について②都道府県士会における認知症取り組みアンケート結果③鳥取県作業療法士会の取り組み－認知症支援の取り組みと他団体との連携－④担当者同士の情報交換会を行った。認知症施策推進大綱のフォローアップについての情報提供、アンケートでは2021年と2022年の事業遂行状況の比較や要因（新型コロナウイルス感染症の影響）についての共有、鳥取県の取組状況（研修会の参加した作業療法士111名をリスト化し事業実施を依頼する）についての共有があった。特に鳥取県の取組については当会にとって非常に参考になった。

## 7. 地域包括ケアシステム推進委員会

### (1) 横浜市事務検討会報告

今年度の派遣は206件中作業療法士45件であった。With コロナということ踏まえて昨年度と比較してもほぼ同様の件数。また新型コロナウイルス感染症の流行前とほぼ同様の派遣回数。令和5年度は現在時点で39件の依頼あり。本派遣事業だけでなく、地域ケア会議など集計に挙がらない派遣ケースもあり、年々作業療法士の関りが増加していると横浜市では分析されている。本事業以外の派遣件数に関しては当会としては概ね把握しており、当会の会員が直接依頼をもらって協力していると聞いている。今後はこう言ったケースも県士会実績として報告していくことを検討する。

## 【理事・三役】

### 1. 澤口理事

#### (1) 会員増ワーキンググループ 活動報告と提言

専門部署を立ち上げて課題分析、データ収集、企画調整など臨機応変に諮問できるように提言。現在担当している福利部と協働を進め新入会員オリエンテーションを確実に実施し顔の見える関係づくりの場を提供できるようにしたい。養成校との関係構築も引き続き取り組んでほしい。研修会に関しては新人向け企画を無料で参加できるようにし、新入会員オリエンテーションを再度実施できるよう取り組んでほしい。会員情報の収集についても継続してほしい。

#### 〈意見交換〉

○日本作業療法士協会の会員率が低下している中で、各都道府県も低下していると聴いている。当会も同様の状況があることを把握している。新しい会員を迎え入れる間口を広げていくこと、今後退会していく会員（定年退職）に対しても会員として継続して

在籍いただけるような体制づくりが必要だと感じている。

○各養成校の定員割れが常態化している状況。今後成り手が少なくなることも予測される。作業療法士の興味関心を高めて、なりたいと思う人を増やしていくように取り組んでいく必要がある。

○リハビリテーション業界全体が縮小化していくことが懸念される。この危機感を共有したい。

○高校生への職業紹介においても業界への興味関心の低下を強く感じる。

## 2. 大郷理事

### (1) 子ども関連部署ワーキンググループ 活動報告

#### ア) ワーキングにて検討・実施した内容

##### ●会員からの意見収集

県士会会員であり医療・福祉（児童発達支援）・学校・養成校に所属する作業療法士から意見を聴取

##### ●経過と現状課題の共有

①協会の重点課題である学校に関わる作業療法士の育成強化において、学校作業療法士が県立養護学校に配置されているが、県士会には情報がなく現場と連携をとることができなかった。

②県立養護学校に在籍する作業療法士だけでなく、近年療育センターや地域の事業所なども訪問支援に出向くようになってきている。また発達領域に関わらず他領域にも依頼があるなど、園や学校に関わる療法士数はかなり多いと予想される。しかし、県内で働く発達領域療法士の横のつながりが少なく、学校に限らず限定された人同士のつながりに依存している。

③作業療法士の職域拡大に伴い、特に福祉領域では経験年数が浅く一人職場の会員などもおり、作業療法士としてのアイデンティティ確立が揺らいでいる、キャリアモデルとなるケースがない（少ない）などの現場がある。

④医療福祉教育から卒業（成人期）への移行を視野に連携を図る必要があるが、移行支援をスムーズにしていくためのネットワーク作りが今後必要と予想される。

⑤発達領域の会員のニーズを県士会としてつかめていない可能性がある。

##### ●日本作業療法士協会制度対策部主催

教育領域への作業療法士参画に向けた意見交換会への参加並びに現状調査への協力

#### イ) ワーキングから理事会への提案

理事だけではなく発達領域に関わる幅広い層の会員を交えて情報交換を行いながら、現状を把握すると共に、課題を整理していく必要がある。そのため次年度は会員を交えながら委員会設立も視野に意見交換会を実施していきたい。地域リハビリテーション部の発達部門にて検討を続

けていく。

### 3. 金山理事

#### (1) 選挙ワーキンググループ 選挙管理委員の選定方法について

選挙管理委員会から依頼を受けて選定方法を検討した。公募について検討したが県士会活動について全く関わりの無い方に就任し運営していただくことは難しいと判断した。社員総会までに選挙管理委員会を選出し臨時理事会で決定する必要があるため、理事会から次期選挙管理委員について推薦をいただきたい。

〈意見交換〉

○理想は公募であると感じるが現状では提案された方法が現実的なのか→マニュアル作成を進めているが何も知らない会員が全てを理解し運用できるまでブラッシュアップされていないため、今後も理事会との連携は必要となる。公正を保ちながらも連携を継続する必要があることを鑑みて提案している

○半数を公募など工夫はできないか

→将来的には公募を行う準備は進めていたが、5月の社員総会までに委員を選出する必要があるため期間として難しいと判断

→現選挙管理委員長が後任委員長に引継ぎを行うことは検討している

○公正性、透明性を担保できるように引き続き準備を進めてほしい

○代議員から選出することはできないか

→規程上できない

○当会を運営するために社員総会までに選挙管理委員会を推薦する必要があることを共通認識してほしい

○理事会全体の課題であり来年度も円滑に運営していくためには今年度中に検討しておくのと良いと考える

〈結論〉

理事会を代表して選挙ワーキンググループより現職の選挙管理委員に継続の意向を確認する。その結果をも共有しながら推薦者の検討も理事会にて行い情報共有する。

### 4. 神保会長

#### (1) 40周年記念事業について

事業が終了し支出報告を行った。

#### (2) 組織改編について

1～2月にかけて各グループで行った意見交換を集約。次月改めて組織改編について共有確認する。

#### (3) 第4回47都道府県委員会について

3月11～12日の2日間対面とオンライン参加のハイブリットで開催された。主に以下の内容に関して報告共有意見交換があった。

①中村会長よりトピックスとメッセージ

②倫理委員会 「倫理問題案件処理フロー」の「受付段階における処理・対応方法」

③国際部、APOTC 実行委員会

「外国人に対するOTガイドライン作成」、「海外OT免許取得者に関する調査」、第8回アジア太平洋作業療法学会（APOTC）の広報活動

④地域社会振興部 次年度の地域社会振興部の移行後の取り組みについて

⑤制度対策部 活動報告

⑥教育部 臨床実習指導者講習会についてと新しい生涯学修制度について第1報

⑦組織率向上対策委員会 現状報告とアンケート依頼

⑧女性会員参画促進委員会 2015年から現在までの活動の振り返りと今後の活動について報告

⑨運転と作業療法委員会 指定自動車教習所との連携状況とマニュアル作成について

⑩「よんぱち」移行後の運営について

協会内の委員会の一つだった47委員会から共同運営に代わる「日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会48団体連携協議会（通称よんぱち）の具体的な運営方法についての提案

⑪士会活動報告

「ダイヤモンドを探せ」と題して複数士会から活動報告があった。当会からは「子育てや介護時の士会活動についての検討」を報告し好評をいただいた。妊活・子育てをテーマとしたが今後は介護と仕事との両立についても経験者を募っていきたいと発表した。

⑫士会活動振り返りシートからの情報交換

事前に配布された振り返りシートをもとに意見交換を行った。入会促進と事務局の体制について各士会の現状を報告。最も会員数の多い北海道からは理学療法学科に落ちて作業療法学科に入学する学生が増えており、学生がそもそも作業療法への関心が低いことがあるとのことであった。茨城県士会では県からの委託を受け、主に障害領域での虐待に関するマニュアルを作成中との情報共有があった。当会からは会員増ワーキングについて報告した。全体でのまとめではe-スポーツに関して話題となり、北海道での活動（個人にあわせてリモコンを作業療法士が作成している）が全国版の新聞に掲載されたことを受け、行政から同様の依頼が作業療法士会に直接きていること、各士会も動向を把握しておいた方がよいとのことであった。

## VI. その他 連絡事項等

### 1. 議事録署名人について

吉本事務局長から指名があり決定する。神保会長、野々垣監事、佐藤範明理事、西川理事。

### 2. 監事より

#### (1) 野々垣監事

今月もお疲れさまでした。役員推薦については重要な事項ですので規程に合わせて検討を進めてください。また臨時理事会で引き続き検討をお願いします。

#### (2) 錠内監事

お疲れさまでした。前回の役員選挙に関する振り返りに関しては、理事会にて必要と承認されるもしくは代表理事からその要請があれば行うことができますが、現状ではありませんので行いません。三役互

選に関しては当日の方法についての内規の整備は進んでいますが、事前の選挙活動に関しては現在明確な規程はありません。引き続き公正かつ円滑な運営が継続できるよう検討をお願いします。

以上（文責：事務局長 吉本 雅一）

★ 2022 年度 第 1 回臨時理事会 議事録 2023.3.22

日 時：2023 年 3 月 22 日（水）20：00～21：04

場 所：オンライン開催のため各自自宅・職場

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、金山桂（副会長）、吉本雅一（事務局長）、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、木村修介、戸塚香代子、澤口勇、西川航平（15 名）

欠席理事：佐藤隼、望月強併、大郷和成（3 名）

出席監事：錠内広之（1 名）

欠席監事：野々垣睦美（1 名）

I. 会長より挨拶

今回の議事は前回の理事会でトピックスの議事であった役員推薦に関してです。事前に皆さんと話し合いこの 1 週間という短い期間で複数の理事推薦候補者を審議できる運びとなりました。みなさんの協力に感謝します。

II. 審議事項について

1. 理事役員候補者 2 名について→承認 理事会推薦候補者として選挙管理委員会に報告する  
※候補者が全て揃い選挙管理委員会に受理されたのち次回理事会で再確認する

III. 確認事項について

1. 理事候補者数についての確認 神保会長より  
II の審議を受けて理事候補者数についての最終確認を行った。現在候補者総数は理事 17 名、監事 2 名となっている。前回までの検討では定足数 18 名まで推薦候補者を検討し挙げていくこととしていたが、公示された日程が明日に迫っており候補者を新たに探すのは現実的に難しいと感じる。来年度は現行から 1 名減ではあるが 17 名体制とし各部署理事の連携協業を進めて運営していきたい。

〈意見質問〉

○理事会の意見として提案通りに賛成であれば良い。しかし来年度は役員改選があるため、残り 1 名であるのであれば、この後も可能な限り推薦候補者を探してみようか。

→規約上可能な範囲であり、かつ社員総会開催に影響がない範囲であれば可能か

○役員（立候補者ならびに理事会推薦候補者も含めて）候補者は社員総会の承認が必要か

→役員に関しては社員総会の普通決議として承認が必要

〈結論〉

- (1) 規約上可能な範囲と社員総会議案書が確実に完成

できる（事前に代議員へ候補者について議案として提示する）ことを前提に残り 1 名の候補者を引き続き理事会で検討する。

- (2) 審議の必要があればメール審議とし 4 月初めまでには決議する予定とする。

IV. 監事より

1. 錠内監事

本日もお疲れさまでした。今回 2 名新たに推薦し承認されたことは今後の当会の運営にとって大きなプラスになります。前回の理事会後に役員で検討協力した活動が実を結んだ形となりました。もう 1 名の推薦候補者についてもできれば挙げていくなお良いと思います。期間もあまりありませんので、場合によっては三役執行部からの推薦があっても良いかと思えます。引き続き検討のほどよろしくをお願いします。

以上（文責：事務局長 吉本 雅一）

★ 2022 年度 第 2 回臨時理事会（メール審議）議事録

日 時：2023 年 3 月 31 日メール配信

提 案 者：吉本雅一

返 信 者：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、金山桂（副会長）、吉本雅一（事務局長）、玖島弘規、佐々木秀一、奥原孝幸、戸塚香代子、佐藤隼、遠藤陵晃、野本義則、神田崇央、佐藤範明、木村修介、望月強併、澤口勇、西川航平、大郷和成（18 名）

〔審議事項〕

1. 2023～2024 年度 理事役員理事会推薦候補者について

第 10 回社員総会での承認が必要な議事であり速やかな対応が必要であるため、理事役員理事会推薦候補者 1 名について審議をした。

上記について理事 18 名全員から承認の確認が得られた。また、2023 年 4 月 3 日に錠内監事、野々垣監事より、手続きを含めて審議内容、結果について異議がないことが確認された。以上により、2023 年 4 月 3 日をもって本件は議決された。

議事録作成者：吉本 雅一

以上（文責：事務局長 吉本 雅一）

2023年2月度理事会  
委員推薦者

【小田原市介護認定審査会委員】

委嘱期間：令和 5 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

舘下 潤一 国府津病院（再任）

佐藤 良枝 曾我病院認知症疾患医療センター（再任）

【湯河原町介護認定審査会委員】

委嘱期間：令和 5 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日

野地 育子 曾我病院（再任）

### 第3回

## 絵本でみる作業療法

ヒミツその②:「床屋さんの左手」は文献になっていた!

「床屋さんの左手」は神奈川県作業療法研究に投稿された文献(理髪動作を「XYZ 連記法」で分析し、課題指向型トレーニングを行い理髪動作の再獲得が可能となった事例)がもとになっている。鎌倉矩子先生が執筆した「手のかたち 手のうごき」の中で紹介されている「XYZ 連記法」を用いて理髪動作を分析し復職(理容師)を支援した内容である。絵本の中では描くことができなかった手の分析方法や練習内容などが記載されている。興味がある方はぜひ一読して欲しい。小学3年生の息子は「床屋さんの左手」が大好きだ。もし息子が作業療法士になったら、この文献と一緒に読みたい。(文責:清水 拓人)



県士会サイトも是非みてね!  
<https://kana-ot.jp/wpm/p-book/>



今度はまことさんのお店に行き  
息子さんの髪を切ってみることにしました。

1ヶ月前に比べて  
上手く髪を切ることができました。

「腕も疲れないし、これならお客さんの髪も切れる」

まことさんと息子さんは大喜びです!!



### 220号(2023年4月発行)のお詫びと訂正について

以下の通り前号にて記載の誤りがありましたので、お詫びしてここで訂正させていただきます。

「各部からの報告」地域リハビリテーション部

(誤)文責:遠藤 陵晃 (正)文責:宮本 啓太

### 事務局からの お願い

#### ●届出内容を変更される方

住所・勤務先・氏名・送付先等の変更がある方は、『登録内容の変更届』を ①郵送 ②FAX ③電子メール(kaiin@kana-ot.jp)にてご提出願います。(随時受付)

### 編集 後記

新年度が始まり、新たな環境にも慣れてきた頃でしょうか。今年はどんな年になるのか。私個人としては新しいことに挑戦する、そんな1年にしたいと思っています。それぞれ目標や思いがあり、日々励んでいると思いますが、少し全国県内の作業療法の動向や活動に目を向けてみてください。きっと役立つ情報があるかと思います。広報部も皆様のお役に立てるよう頑張っていきます。(ひろ)

## 一般社団法人 神奈川県作業療法士会ニュース

〈221号〉2023年6月発行(年4回発行)

発行責任者 神保 武則

編集責任者 佐藤 隼

編集担当 出口 弦舞(国際医療福祉大学 小田原保健医療学部 作業療法学科)

山岡 光(湘南慶育病院) / 佐藤 愛(悠の木株式会社) / 丸岡 ちひろ(済生会横浜市東部病院)

松井 洋鷹(浏野辺総合病院) / 碓屋 瑛理(佐藤病院) / 岩居 洋輝(佐藤病院)

印刷 発送 株式会社高陽印刷所

事務局 〒231-0011 横浜市中区太田町 4-45 第一国際ビル 301号

TEL/FAX: 045-663-5997

月火水木金 10:00~15:00

メールアドレス: jim@kana-ot.jp

一般社団法人 神奈川県作業療法士会ウェブサイト

<https://kana-ot.jp> → 作業療法 神奈川 検索

Facebook

<https://www.facebook.com/kaotwebkan>

Twitter

<https://twitter.com/kaotwebkan>

